

円城浄水場の有機フッ素化合物等の検出に係る町の対応状況等について

- 1 経緯
- 2 原因の究明
- 3 これまでの対応
- 4 今後の方針

吉備中央町

1 経緯

●経緯

「令和4年度水道統計調査」において、PFAS*のうちの国の水質管理目標設定項目（PFOS、PFOA）の暫定目標値50ng/Lを超える1,400ng/Lが検出されている旨、10月13日(金)保健所より連絡があり、緊急対応の必要性を指摘されました。

*PFASとは、4700種類以上の人工的に合成された有機フッ素化合物群の総称で、PFOS（ペルフルオロオクタンスルホン酸）、PFOA（ペルフルオロオクタン酸）はその代表的なものです。

これらの物質はコレステロール値の上昇、発がん、免疫系等との関連が報告されていますが、どの程度の量で影響が出るのか、いまだ確定的な知見はなく、現在も国際的に検討が進められています。

なお国内ではPFOS、PFOAの摂取が主たる要因と見られる健康被害が発生したという事例は確認されていません。

1 経緯

●水質検査結果

採取日	検査結果	備考
【1回目】(R2)2020年11月4日	800ng/L	暫定目標値 50ng/L
【2回目】(R3)2021年10月27日	1,200ng/L	
【3回目】(R4)2022年10月26日	1,400ng/L	
【追加検査】 (R5)2023年10月16日	速報値 1,100~ 1,200ng/L	

●現在の状況

11月22日(水)に飲用再開をしております。

2 原因の究明

●水源の調査

県において、水源である河平ダム周辺水域の水質調査を実施

詳細については、後ほど説明

3 これまでの対応

●対策本部会議

10月14日(土)に円城浄水場有機化合物検出に係る対策本部会議を設置した。

●給水活動

10月16日(月)に地域住民の方に、当面の間、飲料水としての利用を控えていただくよう広報するとともに、円城地域6か所に給水所を設置し、給水活動を開始した。

3 これまでの対応

●円城浄水場の応急復旧

【実施済】

- 河平ダムからの取水を停止
- 日山ダムからの試験取水開始
- 円城浄水場（浄水池）へ、給水車を活用して上水（広域水道企業団）の注入を開始
- 沈殿池の堆積物除去
- ろ過砂及び活性炭の入替等

【実施済】

- 水質検査
- ろ過砂（マンガン砂、敷砂利）の入替
- 配水池等の清掃

4 今後の方針

●部会による取組

対策本部に、5つの作業部会を設置し外部の協力も受け対応する。

○給水部会

広域水道企業団からの受水に向けての作業

○健康・相談部会

健康相談、健康観察に関すること

○風評対策・補償部会

風評対策、補償に関すること

○原因究明部会

原因究明に関すること

○総務部会

予算、広報、対外調整等に関すること

4 今後の方針

●原因究明部会

- この後、県から報告があるこれまでの調査結果のみでは原因究明に至らなかったため、今回原因究明委員会を設置
- 更なる究明を図る